

「しるしではなく、み言葉を信じる」ヨハネ4章46-53節

今日はみなさんと、「役人の息子をいやす」の箇所を分かち合いたいと思います。

しるしや不思議な業を信じる

息子が死にかかっていた役人は、イエス様がガリラヤに来られたと聞いて、イエス様のもとに行きます。役人は、なぜイエス様が息子を癒してくださると思ったのでしょうか？今日の箇所より前になりますが、45節を見ると「ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した。彼らも祭りに行ったので、そのときエルサレムでイエスがなされたことをすべて、みていたからである。」とあります。エルサレムで、イエス様がなされたしるしを見て、多くの人がイエス様を信じました。そして、イエス様の評判は知れ渡りました。カファルナウムの役人もそのことを知っており、カナまで来たのです。役人は死にかかった息子のために、約30キロの道のりを来て、イエス様に頼みました。地位のある役人が身分の低い大工のイエス様に助けを求めるのは、それだけ切羽詰まっていたからでしょう。息子の命が助かるならどんなことでもする、という切なる思いが伝わってきます。自分の家まで来て息子を癒してくださるように頼みます。

それに対してイエス様は「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない。」と言われました。息子が瀕死の状態、一刻も早く癒してもらいたいと必死だった役人に、なぜ、イエス様はそのようにいわれたのでしょうか。イエス様は「あなたがたは」と言われています。役人だけにではなくこの言葉は、ここに集まった群衆に向かっても語られました。ヨハネ2章23節～25節には「そのなされたしるしを見て、多くの人がイエスの名を信じた。しかし、イエスご自身は彼らを信用されなかった。……イエスは、なにが人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。」とあります。エルサレムの人々で、「イエスはすばらしい。」と言って信じた人々は、そのしるしを行なう人として信じたかもしれませんが、この方が人間となられた神の独り子であり、また私たちに罪から救うキリストとしては信じていなかったのです。しるしを行なわれるのは、あくまでもご自分がメシヤ、キリストであることを示すためのものであり、それ自体が目的なのではありません。しかし、役人も同様にイエス様を息子の病を治す人、しるしを行う人として信じたのです。

イエス様の言葉を信じる

ここで思い出される話があります。マタイによる福音書8章5節～12節「百人隊長の僕をいやす」です。この百人隊長はイエス様が一言発せられればそのようになる、と信じていました。なぜなら、百人隊長の自分でさえその権威によって、部下は自分の言葉のとおりにする。まして、この世のすべてを治める権威あるイエス様の言葉であれば、すべてのものがそのようになる、と信じて疑わなかったからです。だから、わざわざ来てもらわなくても、イエス様の言葉だけでよかったのです。

しかし、この役人はそうではありませんでした。「主よ、子どもが死なないうちに、おいで下さい」という言葉からもわかります。家まで来てもらって癒して下さいなければ息子は助からない、と信じていたのです。役人のこの言葉にイエス様は「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」と言われました。役人はすんなりとイエス様の言葉を信じる事ができたのでしょうか？聖書ではイエス様の言葉の後、すぐにイエスの言われた言葉を信じて帰っていった、とありますが、「帰りなさい」と言われた時に、

「えっ」という驚きや落胆、つらい思いはあったでしょう。しかし、自分が息子のためにできることは何もないのだ、目の前のイエス様を信じる、と決断したのでしょう。しるしは見なくても、主がそう語られているのだからという理由だけで、言葉だけで息子は大丈夫だと信じたのです。

イエス様を確信する

イエス様の言葉を信じて、帰る途中に僕たちが迎えに来ます。そして、その子が生きていることを告げます。さらに、病気の良くなった時刻とイエス様が「あなたの息子は生きる」と言われた時刻が同じと知った役人は、どんなに驚いたでしょう。役人はイエス様の言葉を信じた結果、本当にそのようになったことを確認し、イエス様こそがわが救い主であると確信したのです。息子の病からの救いを願っていた役人に、イエス様は魂の救いを授けて下さったのです。確信ある信仰は家族にも伝わっていきましました。なんという大きな恵みでしょうか。

信じることの妨げ

わたし達も、この役人のように大きな恵みを受けたいと願います。み言葉を知っているだけでなく、自分の生活の中でみ言葉を体験していくことで、み言葉を悟り、わたしたちの信仰は成長し、揺らがないものになっていくのではないのでしょうか？もつとイエス様のみ言葉を信じたい、み言葉を体験して確信をもった信仰の歩みをしたいと誰もが願っていると思います。けれど、それを難しくしているのは何でしょうか？

「イエスは、なにが人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。」

(ヨハネ 2 章 25 節b)

「人は目に映るものを見るが、主は心によって見る。」(サムエル記上 16 : 17b)

それは、自分の心の中に原因があるのではないのでしょうか？何が自分の心の中心にあるか探っていく必要があるのではないのでしょうか？

Q「わたしたちが求めているのはしるしなのか？イエス様なのか？」

Q「イエス様に委ねている？自分の考え方や思いに固執してはないだろうか？」

わたしたちの心は目に見えるものに、とても影響されます。みなさんが目にしておられる状況はどのようなものですか？病気と闘っておられる方も多いことを知らされています。職場で、学校で、家庭で様々な問題を抱えておられる方もあるでしょう。また、コロナ危機のために、生活全般に制限をうけ、ほとんどの方が多くのストレスを抱えておられるでしょう。ニュースでは、国内外の災害、事件、争いなど目に見える状況は、決して良いとは言えないものが多いです。それによって心の中には不安でいっぱいになります。早く解決してほしい、治してほしい、の思いも生まれます。当然です。心の中に何があるかを全部知ること、それを変えることも、自分ではできません。しかし、主はそのようなわたしたちをご存じです。わたしたちの心にある弱さ、傲慢さ、罪深さすべてご存じです。これらを、み言葉を信じることの妨げになっているものを手放すことができるように助けて下さい、と毎日求めましょう。切に求める者を主は憐れんでくださいます。そして、この役人のように、見えるものではなく、主のみ言葉に信じ、従い、イエス様を確信して歩み続けるわたしたちとなりますように祈り求めていきましょう。